

実践⑤ 出水市立出水中学校

1 はじめに

本校は、全校生徒 578 名、学級数 18 学級（うち特別支援学級 3）の大規模校である。出水平野の中心に位置する本市は日本最大のツルの渡来地であり、校区内にある武家屋敷群とあわせて観光都市として脚光を浴びている。

読書指導に関しては、一人あたりの年間平均読書冊数 40 冊を目標に掲げ、図書委員会と司書、読書指導係が連携を図る中で読書活動の充実を目指している。生徒は月曜日から金曜日の昼休みと放課後を使って本を借り、月曜日と木曜日の週 2 回、15 分間の朝読書に取り組んでいる。現在の蔵書数は 14,062 冊（充足率は 103 %）、令和 2 年度の平均読書冊数は 47.4 冊（1 月末現在）である。

2 図書委員会との連携

(1) ミニビブリオバトル（6 月）

バトラー 4～5 名がおすすめの本を一人 3 分間で紹介するミニビブリオバトルを実施し、チャンプ本に選ばれた生徒の表彰を行っている。昼休みに体育館で実施しているが、毎年 100 名を超す参加者がいる。バトラーが紹介した本を、その後図書館で紹介してもらうことで貸出しにつなげている。本を媒介にして生徒同士がつながることが、お互いを知ることになり、生徒を読書へと向かわせる大きな力になることも感じている。



ミニビブリオバトルの様子

(2) クリスマスギフトブック（12 月）

図書委員がおすすめの本にラッピングをして中が見えないようにし、それにポップをつける。生徒は、そのポップを頼りに本を借りるという取組である。

貸出手続きを終えた生徒は、カウンターで袋から本を取り出す。まるでプレゼントを開けるかのような表情で袋を開ける姿が見られる。50～60 冊の本を数回に分けて書架に出しているが、すぐに借りられてしまう。本校でとても人気のある取組である。



ギフトブックの配架の様子

(3) 部活動とのコラボ企画（2 月）

本にあまり興味のない生徒が、図書館に来るきっかけになることをねらって始めた取組である。昨年度は吹奏楽部とコラボして「本と音楽」というテーマで行った。まず、吹奏楽部に楽器の説明をしてもらい、その後 2 曲演奏してもらった。そして吹奏楽部の 3 人の生徒に、音楽が出てくる本の紹介をもらった。

また、紹介してもらった本以外の音楽が出てくる本を展示して気に入った本を貸出しできるようにした。

今年度は合唱部とのコラボを予定しており、今後も部活動を変えながら続けていく予定である。



楽器の説明の様子

3 教科との連携

(1) 授業での利用

国語科では4月の図書館オリエンテーションで、分類番号についてのアニメーションを行っている。また、レポートやプレゼンテーション、「読書郵便」や本の帯作りなどの読書に関する単元を学習する際に図書館で授業を行っている。また、英語科の授業で辞書を貸し出したり、総合的な学習の時間の調べ学習で図書館を利用したりしている。



アニメーションの様子

(2) 新刊の購入と必読図書の選定

毎年新刊を購入する際には、学年ごとに本のカタログを渡し、先生方から教科に関連する本を選んでもらっている。また、司書と読書指導係(国語科)が学年ごとに必読図書を10冊ずつ選定している。生徒は、読み終わるごとにカードにチェックし、10冊全て読み終わったらプレゼント券(新刊+1冊貸出しなど)をもらっている。

4 家庭や地域との連携

(1) 家読ギフトブック

生徒が家族へのおすすめの本を借りて、本と一緒に紹介カードを渡すという取組であり、家族と同じ本を読んで感想を共有するというねらいがある。両親や兄弟姉妹、祖父母などのために真剣に本を選び、メッセージを書く姿が見られる。本を読んだ保護者からは、「また他の本も紹介してほしいです」「次から次に吸い込まれそうに読んでしまう本でした」など、良い感想をたくさんいただいている。

(2) 読み聞かせ

地域のボランティア団体の方や、出水市教育委員会の読書推進課・生涯学習課の方に読み聞かせやブックトークに来ていただいている。始めた当初は学年単位で行っていたが、近年は学級ごとに行っている。どの学級も静かに聞き入っている様子が見られ、生徒たちの読書に対する関心を高めている。



読み聞かせの様子

5 成果と課題

(1) 成果

ア 一人あたりの年間平均読書冊数が年々増えてきている。

イ 生徒同士で本を紹介するような取組を通して、普段あまり図書館を訪れない生徒が本を借りに来たり、普段読まないジャンルの本を借りたりする姿が見られる。

(2) 課題

ア 読書習慣が身に付いている生徒と身に付いていない生徒の差がある。

イ 家読を充実させるために、さらに家庭との連携を図る必要がある。

6 おわりに

さらに図書委員会と司書、読書指導係とで連携を図り、生徒たちの読書への関心を高めるような取組を推進していきたい。